

イオル体験交流事業「子ども達に伝えたいアイヌ文化」講座 授業に生かそうと、胆振管内の教員が熱心に学ぶ

町、町教委が主催。白老モシリが主管。8月2、3日、白老コミセンを会場に行われ、町内外の小中学校教諭30人が参加しました。講座は学習モデルの考察から、伝統楽器ムックリの制作、古式舞踊、アイヌ文様の万華鏡や刺しゅう体験、木彫まで全5講座で、座学と体験を通しアイヌ民族の暮らしぶりを学びました。イオル事務所チキサニの森洋輔学芸員と白老モシリの会員が指導、お手伝いに当たりました。



ムックリの制作は、竹を削る作業や音を出す体験に四苦八苦。モシリ会員の響かせる明瞭な大きな響きを横目に、「スカ」「スカ」となかなか音の出ない“マイムックリ”を改善していました。町内小学校の女性教諭は「本とかネットでは知っていますが、体験しないと分からないことがいっぱい。子どもたちの興味関



心が高まる指導を探りたい」と話していました。

古式舞踊イヨマンテリムセ（クマの霊送りの踊り）にも挑戦。歌と手拍子で踊る白老で伝承されている輪踊り。「楽しく踊りましょう！」とモシリ会員のお手本で2回、3回と踊るうちになかなかうまくなり、暑い会場で汗を流しながら懸命に取り組んでいました。森学芸員は「アイヌ民族の精神文化を理解してほしい」と期待していました。



夏休みでも、先生、頑張る！

白老アイヌ碑先祖供養祭 先人の苦労と偉業をしる 白老アイヌ協会

白老アイヌ碑（平成17年建立）のある白老アイヌ民族記念広場（高砂町）で厳かに執り行われ、協会会員、来賓、町民らを合わせ約70人が、シンヌラッパ（先祖供養）など伝統儀式で先祖を供養しました。山丸和幸理事長はあいさつで、町アイヌ施策基本方針の改訂や生活館の改修など町の動きに感謝を述べ、今後も地道な活動継続を誓いました。新井田幹夫さんが祭司を務め、一人ひとりが菓子やくだもの、お酒などの供物を祭壇にささげました。式後は鶴川アイヌ文化伝保存会の皆さんが古式舞踊を披露しました。（8月7日）



知っておこう アイヌ文化

シキナとカトウンキ

イランカラフテ。かつて、白老地方の川や湿地で簡単に見かけることのできた植物のガマ。アイヌ民族は、ガマのことをシキナと呼び、キナやチタッパと呼ばれる伝統的なゴザの材料として利用してきました。しかし、今では限られた場所で見ることができず、ゴザ編みの材料として、町内でシキナを手に入れることは難しくなっています。白老地方で育ったシキナを使い、白老地方に伝わるアイヌ民族のイテセ（ゴザ編み）の技法を、体験を通して多くの方に理解して頂きたいと、チキサニでは、町内のポロト地区とフシコベツ川にて、シキナ、そして同じくゴザの材料であるカトウンキ（フイ）の育成に取り組んでいます。

さて、今年もミニ体験「ゴザ編み体験」を開催するのに先立ち、チキサニでは、8月20日(土)から、町内のポロト地区とフシコベツ川にて、シキナとカトウンキの採取加工と乾燥作業を行っています。晴天時、チキサニの駐車場に所狭しと並べられた乾燥作業中のシキナとカトウンキは、まるで大きな長ネギと万能ネギに見間違えることでしょう。約2～3週間程度、乾燥させたシキナとカトウンキは、徐々に枯草色に変化していきます。

この時期ならではの風物詩をご覧に、ぜひチキサニへお立ち寄りください！



チキサニでは、シキナやカトウンキの採取加工体験も開催している

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301